

目 次

目 次

祝辞：上海華鐘コンサルタントサービス有限会社創立 10 周年を迎えて	1
上海市外資委員会 主任 劉錦屏 江蘇省常熟市 市長 王建康 浙江省平湖市 市長 馬邦偉 上海華鐘コンサルタントサービス有限会社 董事長 周良才	
巻頭言：会員各位のお客様に鍛えられ、育てられたこの 10 年	5
巻頭言(続)：2004 年第 1 四半期の中国経済実績	7
総経理 古林恒雄	
弊社情報	
弊社の新しい組織と経営層のお知らせ	8
特別寄稿	
私と上海華鐘コンサルタントサービス有限会社の 10 年	9
上海大野時装有限公司 総経理 中島清一	
会社創立 10 周年にあたっての社員の思い	11
特別記事	
弊社総経理古林恒雄、江蘇省塩城市を視察	13
華鐘通信編集部	
上海便り	
上海剣道愛好会	15
プロジェクト部 主任 金森愛	
ビジネス Q&A コーナー	
Q:新しく公布された外商投資の卸売、小売業に関する規定について	17
フラッシュニュース	
上半期の経済成長率 9%以上の予測	20
発展改革委員会：3 項目のデータより中国の地域間格差拡大が顕著	20
発展改革委員会、電力価格を調整：KW 時あたり平均 0.014 元の値上げ	21
上海、第 1 四半期の外資導入契約ベースは 34.45 億米ドル	21
編 集 後 記	

上海華鐘諮詢服務有限公司成立十周年賀詞



上海市人民政府對外經濟貿易委員會 上海市人民政府外國投資工作委員會
副主任 劉錦屏

首先我謹代表上海市人民政府對外經濟貿易委員會、上海市人民政府外國投資工作委員會衷心祝賀上海華鐘諮詢服務有限公司成立十周年。

華鐘諮詢公司成立的十年期間，正是中國成為外商投資熱點的期間，華鐘諮詢公司在對外資引進工作方面作出良好成績、並在為外商投資企業提供良好服務的同時，也擴大了自身的经营陣容，已成為上海諮詢業頗具規模和聲譽的企業。

我本人与公司的总经理古林先生也有很多的交往，曾听取过他对上海招商引资方面的意见，也曾看过他写的有关外商投资、管理方面的文章，受到不少启发。上海市外国投资促进中心、上海市对外投资促进中心成立后，聘任了古林先生担任顾问，有这样的外国专家为我们出谋划策，我感到由衷的高兴，这是我们不可多得的财富。

希望華鐘諮詢公司在十年发展的基础上更上一层楼，我們也將為這樣的外商投資企業提供更多的發展機會和創造更好的投資環境。

上海市人民政府對外經濟貿易委員會、上海市人民政府外國投資工作委員會を代表し、謹んで上海華鐘コンサルタンツサービス有限公司創立10周年のお祝いを申し上げます。

上海華鐘コンサルタンツサービス有限公司は創立以来の10年間は、正しく中国が外国企業の投資進出地区として注目を浴びていた時期であり、華鐘は外資導入にあたり極めて優秀な業績を上げ、外商投資企業に優れたサービスを提供するとともに、自社の経営陣容をも拡充拡大し、上海のコンサルティング業界では名実ともに大きな企業となりました。

私と上海華鐘コンサルタンツサービス有限公司古林総経理は旧知の仲であり、古林総経理の上海の企業誘致に関するご意見を拝聴し、また外国企業の投資や管理に関する著作を拝読して、大いに啓発を受けました。上海市外国投資促進センター、上海市對外投資促進センター設立後には古林総経理を顧問に迎え、古林総経理のような外国のスペシャリストが我々のために尽力戴くことを誠に嬉しく、また極めて得がたい財産であると感じております。

上海華鐘コンサルタンツサービス有限公司が今までの10年間の發展を基礎として更なるステージにステップアップされることを祈念致しますと共に、我々も外商投資企業が更に發展される機会とより良い投資環境を創造して行きたいと望んでおります。

劉錦屏



上海华钟咨询服务有限公司成立十周年贺词

江苏省常熟市人民政府 市长 王建康



上海华钟咨询服务有限公司以雄厚的多方位业务实力、广泛的高层次业务网络，耕耘十年，硕果累累，可喜可贺。值此华钟咨询服务有限公司成立十周年之际，我谨代表常熟市人民政府表示最诚挚的祝贺！

近年来，在开放型经济发展过程中，常熟与华钟公司结下了不解之缘。尤其是我市国家级常熟经济开发区和省级东南经济开发区在招商引资工作中得到了华钟公司的大力支持，双方精诚合作，初见成效。在未来的事业征途上，让我们继续紧密合作，协力共进。愿华钟的发展更上一层楼。

上海華鐘コンサルタントサービス有限会社は多方面に渉る豊かな力と高レベルで広汎な業務ネットワークを有し、10年の道のりを経て数々の輝かしい業績を上げられましたことは、誠にお目出度いことと存じます。常熟市人民政府を代表し、謹んで創立10周年のお祝いを申し上げます。

近年、開放経済が発展する中で、常熟市と上海華鐘コンサルタントサービス有限会社は固い絆で結ばれ、特に国家級の常熟経済開発区及び省級の東南経済開発区の企業誘致活動におきましては華鐘の多大なるご支持により、また両者の至誠の協力により多大なる成果を挙げる事ができました。今後の事業においても互いに緊密に協力し合い、共に進んでい

くことを強く希望致しますと共に、上海華鐘コンサルタントサービス有限会社の更なるご発展を心より祈念致します。

上海华钟咨询服务有限公司成立十周年贺词

浙江省平湖市人民政府 市长 马邦伟



值此上海华钟咨询服务有限公司成立十周年之际，我谨代表平湖市人民政府表示衷心的祝贺！

浙江省平湖市是外商的投资热土，已成为浙江省内日本投资的主要集聚地。上海华钟咨询服务有限公司与我市政府和开发区建立了良好的关系，为我市的招商引资和日资企业提供了周到的服务，受到了当地政府和企业的一致好评和信赖。

在此，衷心祝愿贵公司兴旺发达，月刊《华钟通信》越办越好，同时也期待我们双方的合作和交流得到更进一步的发展。

上海華鐘コンサルタントサービス有限会社創立10周年に際し、平湖市人民政府を代表し、謹んでお祝いを申し上げます。

浙江省平湖市は外国企業進出の注目スポットであり、省内でも日系企業の投資が集中する地区です。上海華鐘コンサルタントサービス有限会社は平湖市及び平湖開発区と非常に良好な関係にあり、企業誘致においても日系企業のサポートにおいても極めて行き届いたサービスを提供し、当地では政府及び企業の高い信頼を得ております。

同社のご発展と月間華鐘通信の充実を重ねてお祝い申し上げますと共に、同社と平湖市の更なる協力体制と発展を祈念致します。

上海华钟咨询服务有限公司成立十周年贺词



上海纺织对外经济技术合作公司 经理
上海华钟咨询服务有限公司 董事长 周良才

华钟咨询公司已经走过了 10 年，从业人员从开创之初的不到 10 人，今年预计要超过 100 人。10 年，10 人，100 人，这些似乎不经意的数字，却可以看到公司成长的轨迹，这是毋庸置疑的。

作为上海小有名气的咨询服务公司，华钟得益于中国改革开放的政策，得益于上海得天独厚的经济地位，得益于中国持续的经济的发展。正是由于这种氛围，给了华钟以充分展示和发挥其咨询服务的特长。厚积薄发，脱颖而出。

华钟发展的可贵之处是不断地创新，这种创新是为了服务于客户而设计的客户需求，也是华钟服务的目的，而完善而周到的服务从来就是华钟追求的最高目标。因此，客户的需求或者是为客户创造出需求，是华钟创新的动力。正是这种不断地进取和拓展的精神，使华钟稳步地达到了今天的能力与规模，并且创出了华钟的品牌。

华钟发展的基础是她的经营团队。十年前筹建华钟时的基本成员，今天仍在为公司的发展而勤奋地工作着，这是我们最引以自豪的。经营团队的稳定，团队领军人物的敬业与开拓精神，或许这就是今天华钟成功的秘诀，也是明天再创辉煌的希望。

当然，客户是我们的衣食父母，我们要感谢多年来对华钟的支持。

今天，华钟已经站在了一个新的起点上，向第二个十年进发的“长征”开始了。跻身于中国著名的咨询服务企业之列，是华钟在新十年里所追求的目标。今后几年，根据中国加入 WTO 以后的承诺，国外服务业将逐步地进入中国，华钟所在的环境也将会发生新的变化。

我们已经感受到了竞争，更感受到咨询服务的巨大发展潜力。因此，围绕华钟新十年的目标，我们已经开始了公司改革的构划，把加强经营机制作为首要的工作。近期已准备把一些具有较强工作能力，具有开拓精神的业务骨干充实到公司领导层，担任副总经理等高级职务；为一批年轻的、工作能力强的员工创造有利于发挥其能力的空间；同时要加强内部管理，加强对员工的考核。我们相信，这些举措将对华钟新十年的发展产生重要的影响。只有永不自满，才会永远充满朝气，进取向上。愿华钟的明天更美好。



上海華鐘コンサルタントサービス(有) 創立 10 周年によせて

上海紡織対外経済技術合作公司 經理

上海華鐘コンサルタントサービス有限公司 董事長 周良才

上海華鐘コンサルタントサービス有限公司は 10 年の道程を経て、開業時の 10 名に満たなかった社員は今年中に 100 名を越すと予測されます。10 年、10 人、100 人、これらは意味の無い数字ではなく、会社の成長の奇跡を表す数字である事は疑いの余地がありません。

上海において体は小さいが名の知れたコンサルティングサービス会社として、上海華鐘コンサルタントサービス有限公司は中国の改革開放政策に助けられ、上海という無二の経済的地位に助けられ、中国の持続的経済発展に助けられて来ました。この様な環境と雰囲気にもまれて上海華鐘コンサルタントサービス有限公司は、そのコンサルティングサービスの特徴を十分に顕示し、発揮させて来たのです。実績を厚く積み少しづつその実績を発揮させて、その優れたコンサルティング力をお客様に提示して来たのです。

上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の発展の優れた所は常に新たな創造を行っている所です。この創造刷新は、お客様にサービスを提供する為、お客様の需要に合わせる事がその出発であり、これはコンサルティングサービスの目的でもあって、用意周到なサービスは上海華鐘コンサルタントサービス有限公司が追求する最高目標でもあるのです。そしてお客様の需要若しくはお客様の為に創出した需要が上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の新たな推進力となっています。この継続した進取の開拓精神が上海華鐘コンサルタントサービス有限公司を今日の水準と規模に導き、「華鐘」のブランドを確立したのです。

上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の基礎はその経営部隊です。10 年前の立ち上げ期の基礎と成ったメンバーが今日も会社の発展の為に奮闘しており、これは最も自慢出来る事であります。経営部隊の安定、一群を率いる人物に対する敬慕と開拓の精神が、今日の会社の成功の秘訣であるに違ひなく、明日への飛躍の希望の根源であるとも言えます。

当然の事としてお客様は私たちの糧であり、父母でもあります。私たちはお客様の長年のご支援に感謝しなければなりません。

今日、上海華鐘コンサルタントサービス有限公司は新たなスタート地点に立ち、第二の 10 年に向けての「長征」に出発しました。中国の有名コンサルティングサービス企業の一翼を担う事が新たな 10 年間の上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の追求すべき目標です。今後数年間、中国の WTO 加盟時の承諾事項に基づき、海外のサービス企業が徐々に中国に進出して来ますので、上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の存在している環境も新たな変化に見舞われる事でしょう。

私たちは既に競争を感じ、コンサルティングサービス分野の巨大な発展の潜在力をも感じております。よって上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の新たな 10 年の目標に立脚して、既に会社の改革計画を実行し、経営体制の強化をその手始めの仕事と致しました。一部の業務能力水準の高い、業務開拓精神に富んだ幹部社員を経営指導層に引き上げ、副総経理等の高級職務に就かせます。一群の若い、業務能力水準の高い社員には、その能力を十分に発揮出来る空間を与えます。同時に社内管理を強化して、社員に対する考課を引き締めます。私たちはこれらの計画が新たな 10 年の発展に重要な影響を与えると信じています。

常に満足しない気持ちが永遠のやる気と向上心に繋がるのです。

上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の更に素晴らしい明日を
祈念致します。





112号巻頭言

会員各位のお客様に鍛えられ、育てられたこの10年

弊社上海華鐘コンサルタントサービス(有)はこの5月で会社設立10周年を迎えることが出来た。会社の営業許可証発行日付は1994年4月7日であり正確にはこの日を創立記念日とするが、事務所を内装して創業社員がそろって出勤を開始したのが5月初旬である。1994年5月から今年2004年5月まで、10年の歳月があつという間に過ぎたようで感慨無量のものがあるが、疑いも無く弊社が今日あるのはこの10年の間に弊社会員として登録して戴き、数多くの委託業務を通じて弊社を叱咤激励していただいた会員各位のお客様のお蔭である。10周年を迎えるに当たり、そのご恩の深さを身にしみて感じるとともに、万感の思いを込めて衷心よりの御礼のご挨拶を申し上げる次第である。

弊社は会社発足当初から会員制ということで運営させて戴いており、基本的に非会員会社のお客様はすべてお断りしているが、2004年5月現在で実に360社近いお客様に会員として在籍して戴いて、諸サービスを提供させていただいている。ただ会員制と言っても入会金も無く入退会自由の比較的フリーなシステムで、最近の新規入会のお客様の会員番号は460番を超えているので、これまでこれだけ多くのお客様が何らかの形で弊社をはぐくみ育てて戴いたと言うことであるが、一方現在でも会員番号100番以内のお客様が40社近く在籍して戴いている。これらのお客様は弊社が従業員10人、20人の頃から当時と今も変わらぬ年会費をお支払い戴き、お付き合い戴いているお客様であるが、10年前の弊社のレベル、実力を考えると忸怩たるものがあると同時に、弊社はこれらのお客様に鍛えられ育てられて現在があるのだという強い実感があり、本当にどのような言葉でも語りつくせない感謝の気持ちでいっぱいである。また最近の新規入会のお客様はそのほとんどが既存会員のお客様の紹介であり、設立10周年を迎えることが出来たことに対して、私たちが育てて戴いたお客様、今も支持し叱咤激励して戴いている全てのお客様に対して、改めて衷心より感謝申し上げる次第である。

弊社発足の1994年と言えば、10年経過した現在は外貨保有額で世界第2位、輸出入貿易総額で世界第4位となった経済大国中国の急速発展のスタートポイントとなった年である。当時国務院副総理、中国人民銀行行長であった朱鎔基氏は、大方の予想を裏切って同年1月1日を期して人民元の二重為替レート廃止(世に「人民元の大幅切下げ」と言われているが実態は公定レートを市場レートに統一しただけで実質的な切下げではない)、外貨兌換券廃止、増値税導入などの税制抜本改革を一挙に断行した。経済規模はGDPで現在の3.5分の1、貿易総額で4分の1以下の規模で、人々の生活も現状からは想像できないぐらい貧しかった。しかし朱鎔基総理の抜本改革が功を奏してこの年を起点として街には物が豊かにあふれ、貿易額の急伸、高速道路網の拡充、都市ビルの林立などが始まったのである。この10年の間に都市部の人々は住宅を持ち、車を持ち、株式に投資し、家族で外食とショッピングを楽しむ裕福な生活を享受出来るようになった。弊社の社員給与を見ても入社時の5倍を超えているのでその生活の激変振りが想像できる。

もともとなぜ投資コンサルティング会社を始めようということになったかと言うと、10年前の1994年と言えば日本企業で中国へ投資する会社が目に見えて増加した時期である。私自身は1978年から上海金山や山東済南のポリエステルプラントの商談や建設に従事し、

1985年からグループの合弁事業を手掛けていたので、中国での業務歴では既に16年、合弁の設立と経営経験も10年近くの実績があった。上海市政府の外資所管部門のお役人間では「いろいろと要求を出してうるさい日本人」ということで知られるようになっており、また新しく進出しようとする日本企業から先輩企業としてアドバイスを求める訪問者も多く、これらの訪問者を都度上海市外資工作委員会や関連工業局に紹介していた。しかしそのうち彼らが悲鳴を上げて「古林さん、私たちは貴方のお客さんの面倒見るために仕事が出来ない」と言うことになり、私としては「上海に投資しようとする外国資本の面倒を見るのがあなた方の仕事でしょう」と譲らなかったが、その結果として「政府も出資するので日系企業投資窓口としてのコンサルティング会社を作ってください」ということになり、当時も大変儲かっていた上海華鐘ストックング(株)の配当金の一部を回して設立したのが弊社である。会社の登記住所は、通称バンドと呼ばれて今は上海の金融街中心地となった外灘(ワイタン)の上海市中山東一路24号、当時の上海市紡織工業局、その昔の横浜正金銀行(東京三菱銀行前身の東京銀行の更はずっと昔の前身)ビルで、現在は世界一支店数の多い中国工商银行上海分行ビルとなっている。当時は会社を設立する際の登記住所に関して、現在のように登記住所の賃貸契約書とかうるさい規則は無く、最低資本金の外資企業ではあったが上海市紡織工業局傘下の上海紡織対外経済技術合作公司との合弁であるので、せめて登記場所だけでも立派な場所をとということであった。

しかし実際に業務を始めるにはやはり場所が必要であり、とにかく安い所を探した結果が虹橋路1488号上海紡織療養院の一室であった。家賃は1年1万元、社員は全部で10名に満たず、その中に私を含めて現在の弊社最高幹部である陳寧助理総経理、王松盛副総経理、顧中鈺副総経理、陳偉勇副総経理、榮亜華弁公室主任の6名が居たということで、これは中国の一般の会社の状態から考えると半ば奇跡的なことであるのかもしれない。

このようにして生まれた弊社のその後の10年は、まさに中国経済の急速発展に便乗させていただいたような形であることも否めない。1年経過した1995年末の実績を見ても社員数11名、会員数41社、売上高はわずか195万元で損益は赤字である。それが2004年の今年の目標で見れば売上高は15倍、社員数、会員数で10倍を目指すところまで成長させて戴いた。その間中国への外国投資の逐次増加(年間の外国投資実行額で言えばこの10年間で1.4倍)に伴い同業の競争相手会社も激増し、また法令諸規定などの投資環境も整い、中国への投資がそれほど特別なことではなくなった、という状況の変化もある。その意味で弊社にとって今後の10年はこれまでほど順調な10年ではないであろうと覚悟を決めており、その意味から10周年を記して董事会決議を経て会社組織の大改革(「組織改革のお知らせ」をご参照)を実施した。意味する所は新しい弊社の10年に向けて、外国企業の中国投資コンサルティング企業として名実ともに中国ナンバーワン企業となることを目標に新たな歩みを始めたいということである。

日系企業に育てられた10年であったが、台湾・香港企業も韓国企業も欧米企業も弊社のようなコンサルティング会社を求めておられるはずであり、その意味で絶え間なく新規のサービス商品を開発し、新規市場、新規顧客を求め続けることで、現在の弊社のお客様にもより大きな便宜を提供し、また会社としても更なる発展を期したいと考えている。なにとぞ引き続きご愛顧賜り、厳しいご指導とご鞭撻、絶え間ない叱咤激励を賜るよう、心からお願いする次第である。

(上海華鐘コンサルタントサービス(株)総経理 古林恒雄)

112号巻頭言(続)

2004年第1四半期の中国経済実績

2004年の第1四半期が終了したが、国内総生産(GDP)の成長率は前年比9.7%増を記録した。固定資産投資が前年比47.8%増と激増し、ここ数年前年比マイナスを続けてきた小売物価上昇率が前年比2.8%上昇するなど、インフレ懸念を含んで若干心配な兆候が出ていることは確かである。これに対して中国人民銀行は4月25日から大部分の金融機関に対して預金準備率を7%から7.5%に引き上げたが、これにより市場から回収される人民元は1千数百億元になり、固定資産投資の抑制に効果がありそうである。特に過剰投資を指摘されているのは鉄鋼やセメントの建設資材で、市場価格の値上がりが続いて不足していることも確かであり、弊社のお客様である日本の大手鉄鋼メーカーの方の言葉によれば「中国における今の増設計画では、日本の全鉄鋼生産量分が毎年増加することになり、数年後にどのような需給バランスになるか全く見当がつかない」というような状況である。

政府首脳、特に温家宝首相は一部の業界の行き過ぎた設備投資を抑制すべきである、と再三にわたって指摘しており、最近の報道では、中国政府は違法な大型製鉄所の建設を認めた江蘇省常州市の共産党委員会書記や同省発展改革委員会副主任、中国銀行常州支店長ら8人を解雇や党による厳重注意処分としたことが伝えられた。

ただし2004年に入って貿易収支が▲84.4億ドルの赤字に転換しており、このままの状況が続けば年間の外資流入500億ドルをかなり相殺する効果があるので、場合によってはそれほど極端な引き締め措置を取る必要はないように思える。

外資系企業にとって2004年の当面かつ最大の課題は電力不足問題であるが、これについては2004年、2005年と現在のような状況が続き、本格的に解決するのは2006年となるというのが政府筋の電力担当者の見方である。経済の発展と共に電力の需要量増加は年率20%を上回っており、建設中で稼働を始める発電所も多いが、少なくとも今年は昨年並みの電力不足は避けられそうにない。ただ電力の配分に関する経験と知見の蓄積効果や江蘇省では長江以北の電力を長江以南に回す、などの措置も多少の効果を発揮するはず、と期待している。

項目	単位	2003年 第1四半期	前年比	2004年 第1四半期	前年比
国内総生産(GDP)	億元	23,561.6	9.9%	27,105.5	9.7%
第1次産業	億元	1,630.7	3.5%	2,028.8	4.5%
第2次産業	億元	13,414.1	12.3%	15,634.0	11.6%
第3次産業	億元	8,516.8	7.6%	9,442.8	7.7%
工業生産付加価値	億元	8,343.0	17.2%	11,318.3	17.7%
固定資産投資	億元	4,478.6	31.6%	7,058.5	47.8%
社会消費品小売総額	億元	11,108.6	9.2%	12,830.6	10.7%
消費者物価指数		0.5%↑	—	2.8%↑	—
小売物価指数		0.2%↓	—	1.4%↑	—
都市住民可処分所得	元	2,354	8.9%	2,639	12.1%
農村住民純所得	元	737.1	7.5%	834.3	9.2%
都市部新規雇用	万人	—	—	—	—
レイオフ者再就職	万人	—	—	—	—
輸出入貿易総額	億ドル	1,736.6	42.4%	2,398.5	38.2%
輸出総額	億ドル	863.2	33.5%	1,157.0	34.1%
輸入総額	億ドル	873.4	52.4%	1,241.4	42.3%
貿易黒字	億ドル	-10.3	—	-84.4	772%
外貨準備高	億ドル	3,160	38.8%	4,398	39.2%
外国投資契約件数	億ドル	8,624	36.6%	10,312	19.6%
外国投資契約総額	億ドル	230	59.6%	343	49.2%
外国投資実行総額	億ドル	131	56.7%	141	7.5%

(上海華鐘コンサルタントサービス(有)総経理 古林恒雄)

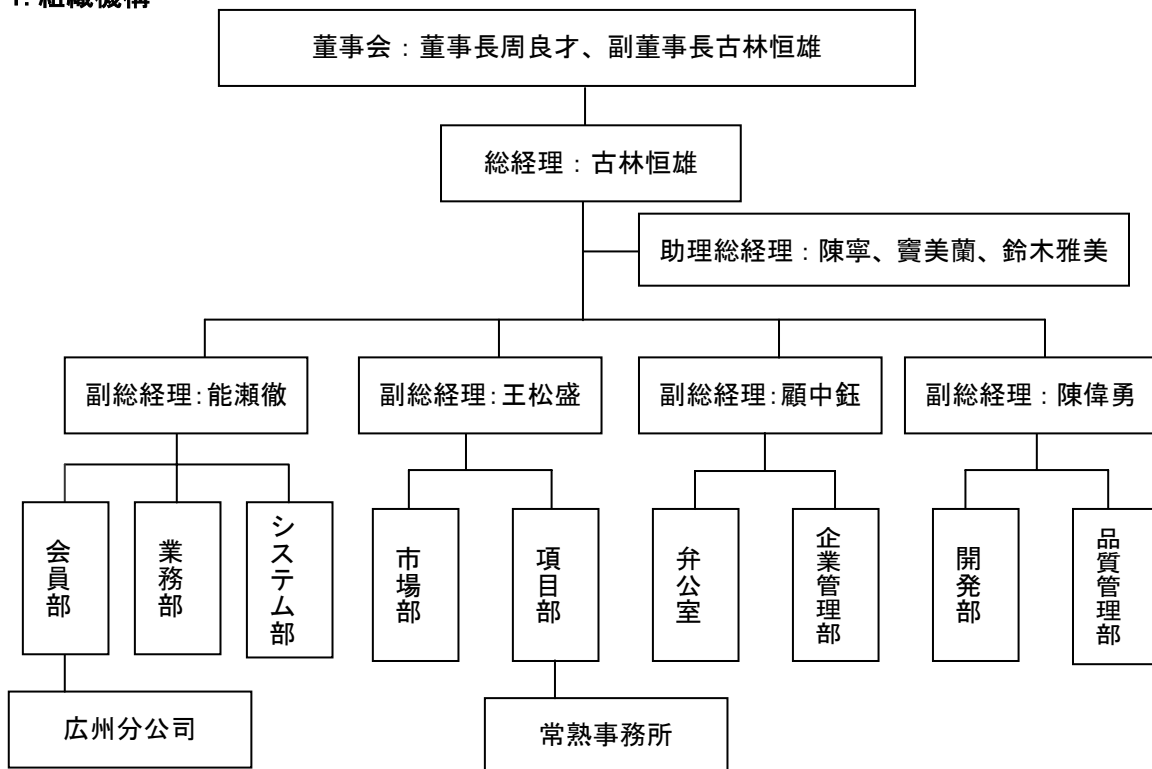

弊社情報

弊社の新しい組織と経営層のお知らせ

お蔭さまで弊社はこの度 10 周年を迎えることが出来ました。お客様に育てられたこれまで 10 年を基礎に、新たな 10 年に向けて時代に適合できるコンサルティング会社として生まれ変わるべく、この度会社の組織機構を全面的に改革いたしました。弊社は今後の中国が直面する新しい時代にふさわしい会社として「**創新（新たに創業）**」することを目指します。

記

1. 組織機構



2. 助理總經理、副總經理の新設と新人事

助理總經理： 總經理を代行して部門業務を総合的にサポート・監督します。

陳寧：会員部、業務部、系統部、開発部、質管部を所管。

竇美蘭：市場部、項目部、企管部、弁公室を所管。

鈴木雅美：全部門を所管。

副總經理： 所管部門の長として部門管理と目標達成に責任を持ちます。

能瀨徹：会員部、業務部、系統部を所管。

王松盛：市場部、項目部を所管。

顧中鈺：企管部、弁公室を所管。

陳偉勇：開発部、質管部を所管。

 特別寄稿

私と上海華鐘コンサルタントサービス有限公司の10年

上海大野時装有限公司

総経理 中島清一

1. プロローグ

あれは1993年春の事でした。

中国では1978年に鄧小平さんが世界に向かって改革開放を宣言されていました。

私はその後すぐ、1980年頃から1988年に亘り、北は大連から北京、青島、済南、上海、蘇州、広州等各地のニット事情や生産されている生地の内容、或いは労働意欲、賃金、福祉の状態、又輸送手段やその消費時間、投資の条件等について十数回に亘り



中島清一総経理

綿密に調査して回りました。結論として、その時代の状況では中国へ進出しても原料の生地手当が難しく、日本国内でお客様に買って頂ける商品を生産出来ないと判断して日本国内での生産力強化の方向に傾いていましたが、しかし機会があれば、どうしても中国へ出たいとの意思を内に潜めていました。従って1995年頃迄は当分日本国内で落ち着いていても良いものと思っておりましたが、しかし1990年代に入ってから急速に中国の経済事情が変化して開放速度が速まりました。そのような折に1993年春、株式会社レナウンの松坂社長(当時)より中国進出意思の有無について声が掛かり、同社長に誘われて早速上海へ出かけました。訪問先はカネボウが既に合弁をされていた上海第十九棉紡織廠と上海第十五棉紡織廠の各綿紡績工場でした。

そんなわけで間もなくカネボウ中国主席駐在員の古林恒雄氏との出会いとなりました。思えば早10年となります。

2. 上海華鐘コンサルタントサービス(有)との出会い、中国進出決断

それまで幾つかの合弁企業の立ち上げをされていた古林氏より中国事情や合弁会社の事細かな説明を受けて、早くも1993年末頃には合弁の意思が固まり、本格交渉を始めました。

その頃既に古林氏は上海市との合弁コンサルタント会社の設立申請を提出されていましたが、その当時の事が今でも鮮明に甦ります。それは熱の籠った語り口でコンサルタント会社の将来展望を話されていました。わずか数名のスタッフでのご出発でした。

さて、私たちもいよいよ合弁を決意し、中国側パートナーとも基本合意に至り手続段階に入りました。合弁会社設立に関わる諸手続は全て古林氏が総経理を兼務する上海華鐘コンサルタントサービス有限公司が引き受けて下さり、長期の事業計画書や投資内容の策定、合弁相手との交渉等一切合切を引き受けて頂きました。

勿論スタッフの皆さんがこぞって夫々の分担域を気持ちよく引き受けて下さいました。現在の会員部主任の陳寧女史もそのお一人です。当時の皆さんの親身になったご協力は今も彷彿として甦ります。

もしこの時、古林総経理との出会いが無ければ、恐らく私の中国事業出発はスムーズに

進行出来なかったでしょう。上海華鐘コンサルタントサービス有限会社の最初の会員 1 号となったからこそ、爾来 10 年に亘り、力強い後ろ盾となって頂き、私たちは何の心配もなく事業活動が出来たと強く感じています。爾来毎月のように古林総経理のお誘いで昼食を共にさせて頂きながら近況をお聞きしています。

3. 起死回生を期しての上海進出後の経過

私のニット事業 60 年の経過の中での大変化は 1960 年代の合織の出現、次いで 1975 年代の肌着からカットソー外衣への転換、1990 年代の海外移転即ち中国進出の三つでした。この三大変化の中で最も決断に意を注いだのは海外移転でした。起死回生の決断でした。この起死回生の上海移転が上海華鐘コンサルタントサービス有限会社のご協力でこの 10 年の成功を見ました。因みに、上海大野時装有限公司の業績の推移を表します。

上海大野時装有限公司の 10 年の推移

単位：千元

	1995 年実績	1996 年実績	1997 年実績	1998 年実績	1999 年実績
売上高	2,620	54,549	71,152	43,217	53,539
	2000 年実績	2001 年実績	2002 年実績	2003 年実績	2004 年見込
売上高	97,015	100,453	114,297	116,935	120,000

表にすると推測し難い様々な問題処理にはその都度古林総経理からの適切なアドバイスの下、各スタッフのご協力で事無く推移してきたことは申すまでもありません。又、上海事情もこの 10 年、とりわけ 1998 年以降は大変化でした。思い浮かぶものだけでも以下のような変化がありました。

交通手段：高架道路の建設、一般道路の整備、地下鉄敷設、モノレール開通

環境整備：緑地帯の拡充、緑樹公園の増加、住環境の拡充、新旧入れ替え、高層マンション(30 階以上)の林立、大気汚染の防止、発電力量の拡充

産業整備：誘致企業の整備拡充 等々

4. 結びにかえて

近代都市として恥ずかしくない東洋の代表的都市として人口 1,600 万～1,800 万に相応した機能豊かな一大都市に生まれ変わりました。

この歴史的な大変化の上海市に上海華鐘コンサルタントサービス有限会社の古林総経理と共にこの 10 年を歩み、その間、我が上海大野時装有限公司は上海市の優良企業 500 社の中に選ばれ、国家税務局納税信用 A 類企業に認定されるなど、着々と企業基盤が整いつつあります事はこんな嬉しい事は他にありません。感謝の一語です。

今後中国経済は益々発展する事でしょう。それに伴い、新しい問題点も次々と表面化すると思います。これ等はなんとか上海華鐘コンサルタントサービス有限会社の方々のお知恵をお借りしてクリアさせて頂きたいと思っています。

上海華鐘コンサルタントサービス有限会社はその間発展に発展を遂げられて、売上、利益共年々記録を更新され、従業員スタッフも優秀な人材が 90 名近い業界屈指のコンサルティング会社に成長されました。会員企業の一社として大変な誇りです。最先端の情報機関として益々のご発展を祈念して止みません。

これからも末永くご相談やご指導をお願い致しまして、この 10 年の記念のご祝辞と致します。誠にありがとうございます。(完)

● 会社創立 10 周年にあたっての社員の思い



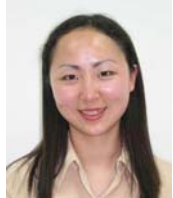
2003年の月刊華鐘通信第100号記念号発刊の際には、ベテラン社員の回想録を掲載いたしました。今回は上海華鐘コンサルタントサービス有限会社創立10周年にあたり、新旧6名の社員の感想をお届け致します。



工務部主任 王式之(1998年7月入社)

光陰矢の如し、月日はあっという間に経ち、瞬きしている間に会社は創立十周年を迎えたような気がします。10年という長き歲月において、総経理の開拓精神と敬業精神に導かれ、また社員が一丸となって奮闘努力した結果、会社は数々の輝かしい業績を成し遂げました。

入社以来6年、活気と活力に満ちた業務環境の中で、古希を迎える年でありながらも「老人にも学ぶべき場所がある」と感じ、更に「老人にも楽しみがある」と思う毎日です。社内は管理体制も刷新して業務は急速に発展し、社員も拡充を続けております。社の業績が更にステージアップすることを願い、今後もある限りの力を発揮してゆく所存です。上海華鐘コンサルタントサービス有限会社の輝かしき前途を祈念致します。



会員部プロジェクトマネージャー 兪穎春(1999年7月入社)

大学新卒で入社し、弊社で社会の第一歩を踏み出しました。入社以来5年間、多くのことを学び、成長の機会を与えて頂きました。

優れた会社には優れたスタッフが集い、また優れたスタッフを育成するように、殆ど毎日新しいお客様にお目にかかったり、新しい分野に挑戦したりする環境にあって、今では各種情報の授受が楽しくなり、また色々な困難にも臆せず立ち向かえるようになりました。専門スタッフが拡充し業務が益々拡大する中で私達を信頼して下さる会員企業の皆様からも多大なるご支持を頂き、私自身もたゆまぬ努力と向上を続ける所存です。次の5年、10年にも更なる発展を遂げ、お客様からのご信頼とご支持を頂けるよう願っています。



プロジェクト部主任 金森 愛(2000年8月入社)

私が会社に入社した約4年前、従業員数は約25名、会員企業は約100社ほどでした。当時は会社として新たな会員サービスを模索していた頃で、ちょうど日刊華鐘通信の作成が決まり、私は2年にわたり同紙の作成、配信を担当しました。毎日の新聞翻訳であっという間に一日が終わる日々。中国で仕事をしているのに、社内の中国人スタッフとは全く接触がありませんでした。

プロジェクト外部への移籍により多くの中国人スタッフや政府関係者、多くのお客様と仕事をできるようになり、厳しい乍らも充実した毎日を過ごしています。プロジェクト外部の仕事は毎回違う課題に挑戦する仕事です。今後はより一層の顧客サービス充実に努めます。

市場部主任 王 瀾 (2001年1月入社)

2000年、日本で8年にわたる留学と仕事を終えて中国に帰国した後、幸運にも当社の一員となりました。当時は会社が急速に発展していた時期で、業務も人員も急増、拡大の結果業界では極めて高い信用のブランドを樹立することとなりました。



当社は海外から帰国した留学生がその能力を発揮できる最良のステージであると思います。入社以来あっという間に3年が過ぎ、最初は試行錯誤、そして徐々に適応して今では独立して仕事を担当できるようになり、同僚と楽しく仕事をする中で実に沢山のことを学びました。数年来の自分の成長は会社と不可分であり、また今後も会社が更に発展し、我々社員の一人一人も大きく発展できるよう願っています。

企業管理部プロジェクトマネージャー 胡秀山 (2002年11月入社)

2002年11月入社当時、会社は急速な発展の渦中にあり、混みあったオフィスで社員がみな忙しく且つ整然と業務にあたっており、一瞬茫然としてしまいました。シンプルで渾然とした様子は私がそれまでイメージしていた外資系コンサルティング会社とは違っていました。時間と共に、シンプルな外観の中には顧客への周到なサービス、社内のチームワーク、敬業精神等、表立っては光らない業務の各段階の細部に豊富な内容があることがわかってきました。



会社の業績と利益は年々成長を遂げており、前途は極めて明るいと感じています。会社の発展拡大に伴い、私自身の業務レベルも向上して行きたいと望んでおります。

会員部プロジェクトマネージャー 楊樂陽 (2002年12月入社)

2002年12月に入社してからというもの、会社は生き物であって常に「変化」することが正義であり、特に中国においては「変化に対応できない人間も会社も淘汰される」ことを身にしみて感じさせられています。



会員部に在籍するわずか1年半の間に、会社の信用力向上はもとより、韓国チーム立上げや政府系特別会員制導入等により会員数は100社以上増加しました。また、華鐘希望学校3校設立支援という社会活動の実施や、私が生まれた年に中国の土を初めて踏んだという(!)古林総経理の、この間における10ヶ所以上の人民政府及び開発区からの顧問任命や、上海市人民政府からの白玉蘭賞受賞もあり、弊社の社会的役割は日増しに大きくなっていると言えます。今年は創立10周年を迎えましたが、今後10年も「変化」を恐れずに会社と共に歩んでいきたいと思っております。



特別記事

弊社総経理古林恒雄、江蘇省塩城市を視察

華鐘通信編集部

江蘇省塩城市共産党委員会、塩城市人民政府及び塩城テレビの招きにより、去る4月27日、弊社総経理古林恒雄を代表とする一行が2日間にわたり同市を視察しました。

27日夕、視察団一行は塩城市共産党委員会副書記、市長である趙鵬氏をはじめとする市の幹部と会見し、趙市長から同市の概況が紹介されました。塩城市は蘇北平原の中央部に位置しており、582kmにわたる海岸線と太平洋西岸地区では最大の683万畝(約4,549km²)に及ぶ干潟を有する、生態環境に恵まれた土地です。塩城の国家級珍鳥類自然保護地区には毎年1,000羽程の丹頂鶴が飛来し、世界の鶴類の50%以上を占めている他、大豊国家級四不象(鹿の一種)自然保護区には世界の総数の25%に当たる600頭余りの四不象が飼育されており、国家AA級のレジャー地区として有名です。一方で経済は急速な発展を続けており、豊富な土地、労働力資源等、数多くの利点がクローズアップされています。アクセス面では、上海直結の高速道路(塩通高速)が建設中で、2005年末完成の暁には、上海まで僅か2時間半(現在は4時間)となります。趙市長は今回の視察を通して塩城をよく見て頂き、日本やその他の外国の方々に塩城を紹介して頂きたいとの希望を話しました。古林総経理は自ら中国語で自社の状況を説明すると共に、今後は日本企業に塩城を推薦し、相互発展を目指しましょうと語りました。



塩城市共産党副書記、市長趙鵬氏(右)と古林総経理の会見



日本投資咨询专家古林恒雄来盐考察 赵鹏会见来宾一行

本報訊(高阜)盐城市委、市政府、日本投資咨询专家古林恒雄昨天来盐考察。市委副书记、市长赵鹏会见古林恒雄一行,并与来宾进行了亲切友好的交谈。副市长徐恒荣及市有关部门负责人陪同会见。

古林恒雄毕业于日本东国大学,现为日本华精株式会社副社长,常驻中国,在中国工作20多年,熟悉我国的历史、文化和经济发展概况。在改革开放之初,曾赴日本与上海金山石化重大项目日方签约代表、谈判期间,他先后负责与上海等地签订纺织、化工等项目,共引资资金8.6亿元。據上海市政府新闻对外报道中心高翔翔说,同时,江苏、浙江、陕西等地的9个地市级市聘其为投资顾问。他个人先后捐资办了3所希望学校,曾获上海市“白玉兰”奖。

昨晚,赵鹏在盐阜宾馆会见了古林恒雄一行。主席双方进行了亲切友好的交谈,赵鹏简要介绍了我市的历史文化和经济社会发展概况。他在讲话中指出,盐城生态环境好,有太平洋西岸最大的滩涂湿地,人与自然和谐发展,拥有丰富的土地资源 and 劳动力资源。近年来我市工业发展较快,汽车、纺织、机械、化工等产业是我市的支柱产业。

赵鹏说,目前盐城经济发展步伐在加快,许多潜在的优势正在凸现出来,古林恒雄先生来盐考察期间,希望考察能给古林恒雄先生留下深刻的印象,把盐城推介给日本和其它国家的企业家,加强相互之间的交流与合作,让国际上更多的企业来盐投资,共同发展,共同富裕。

古林恒雄在交谈中用流利的汉语介绍了自己公司的有关情况后说,今后将向更多的日本企业家介绍盐城,推荐盐城,促进双方友好交流与合作。

会见结束时,赵鹏向来宾赠送了纪念品。

今天,古林恒雄一行将到我市经济开发区和部分纺织企业进行实地考察。

4月28日の塩阜大衆報トップ報道「日本の投資コンサルタント古林恒雄、塩城を視察」

翌日早朝、視察団一行は塩城市外事辦公室の手配により、終日視察行いました。

最初の視察は塩城経済開發区で、概況の説明を受けた後、古林総経理から進出した外資系企業や日本語人材の労働コスト等について質問がありました。行政側の説明よりも更に

説得力があるとして、開発区招商局は既に当地に進出した工場の日本人を招き、その方からこの2年間における塩城の都市建設及び交通建設の発展、開発区管理委員会の進出企業に対するサービス等について説明を伺いました。

次に一行は中～高級のジャガード絨毯、プリント絨毯等を生産する宏大毯業有限公司や蘇北地区初めての工場企業である江蘇悦達集団の傘下にある悦達紡織科技工業園を視察しました。各社の幹部に伴われ、一行は工場の主要工程を見学し、技術者から説明を受けました。



江蘇悦達集団董事、局副主席朱如華氏(右)が一行に建設中の工場の説明を行う

今回見学した企業は何れも塩城を代表する大企業や大集団であり、説明によると、塩城市は自市の実情に基づいて既に大企業、大集団戦略を用いており、5～7年内には悦達や森達等の6つの企業を営業収入100億元の大集団に育て、更に営業収入50億元の大企業6社と新規工場企業6社を育成するとのことでした。外資導入については、市政府は「日本・韓国企業を重点に、また欧米企業を開拓し、上海と直結して全面開放する」という姿勢を打ち出しており、自動車部品と紡織業を中心に企業誘致すると

共に、上海とのアクセスを早期に整備し、塩城を上海の庭園として位置づける都市建設をはかりたいとのことでした。

午後は塩城市街地から車で約1時間、塩城の北部に位置する6県3区の1つである射陽県を視察しました。県長である高氏の説明によると、射陽は「全国綿花状元県」という、綿花生産では全国ナンバーワンの称号を得ており、これに基づく紡織工業の発展は目覚しく、県の基幹産業であるとのことでした。県全体では綿紡55万錠、織機4,000台、服装加工設備4,000セットを有し、年間では綿糸8万t、綿布6,000万m、アパレル700万枚を生産しています。一行は主要産業を支える紡織機械の省級民営科技企业集団である江蘇大宏集団を見学した後、上海に戻りました。

今回の視察により、一行は蘇北地区に対する認識を新たにし、現状では塩城市の企業誘致や経済発展は蘇南地区に及ばないとは言え、活力に溢れ、豊富な土地や人材資源を有する現代都市として、塩城市は近い将来企業進出のホットスポットになるであろうと感じました。





上海剣道愛好会

上海華鐘コンサルタントサービス有限公司
プロジェクト部 主任 金森 愛

今年のメーデー(労働節)の連休を日本で過ごし、上海に戻りました。ちょうど1年前はSARSのせいで、予約したホテルやエアチケットもキャンセルし、何をすることもなくこの連休を過ごしたなあこの1年を振り返ってみました。

さて、去年のSARS騒動は、私にとっては新たな挑戦の日々のスタートとなりました。今では私の生活の一部になっているともいえる上海剣道愛好会。この会はSARSのおかげで(?)新たな展開をすることになったのです。それは中国人メンバーの入会…。

これまでの上海剣道愛好会は、剣道好きの日本人が集まって稽古をするという「対外不開放」の活動をしていました。しかしSARS騒動中、活動場所として使ってきた上海日本人学校の体育館は「日本人学校の生徒とその関係者以外は使用禁止」となり、「日本人学校使用不可メンバー」である私たち上海剣道愛好会の面々は、上海市内の狭いジムを2週間ずつ転々とするという、渡り鳥さながらの稽古を続ける羽目になったので



上海剣道愛好会の面々

す。私も場所の確保に努めました。その交渉では、「中国では剣道は一般的じゃない。そういう団体に場所を貸すことはできない。国はバドミントンなどを奨励しており、そういうスポーツ促進には奨励金が出る」と断られたり、「場所は貸してもいいけど、ジムのプログラムとして指導して欲しい」と持ち掛けられたりと中国で剣道をする事の難しさを実感し、さすが中国!と憤慨したり感心したりしました。

ところが市内のジムを転々としたことで、一般の中国の人々の目にその稽古姿が留まる場所となり、剣道を試してみたいと言う中国人が続々と見学に訪れ、そして入会してきました。入会したこれらの中国人のほとんどは日本と無縁の生活をしており、日本に行ったこともなければ、日本語も知らない人々です。

「剣道を中国語で指導する」、これは今まで経験がないことでした。中国語はできる、剣道もできる、でもその2つがうまく結びつきません。中国人のメンバーは、「説明しても理解できない部分」が数多くあり、しかもこちらは剣道用語やその背景にある考え方を中国語で説明するなど、日常では使わない不慣れな中国語で交流を図らなくてはなりません。そ



きいえ～、め～ん

して剣道の先生方は中国語が不得手。しかし、先生方は剣道の話となれば、日本語を機関銃のように話すので、それを通訳するだけでも大変です。

時は変わって2004年2月。毎年、香港で開催される剣道昇段審査とアジア剣道トーナメント(交流試合)に、初めて上海人のメンバーとともに参加しました。この上海人のメンバーは去年のSARSの時期に知り合い、ともに剣道を楽しんできた仲間です。

前日の昇段審査では、上海人メンバー5人が初段に合格し、上海剣道愛好会史上初の上海人の初段が誕生しました。試合では、もちろん歯が立つ相手との対戦ではないので、1勝もできずに終わりましたが、上海剣道愛好会メンバー全員が新たな時代の到来を予感した対抗戦試合となりました。今後、上海の剣道を発展させていくのは、地元の人たち。私たち日本人は、技術指導者として上海の剣道発展に貢献できたらいいなと改めて感じました。私も試合に参加しましたが、1年間、上海人メンバーとともに稽古に励んできたのが功を奏し、上海女子チーム団体戦として優勝を果たす事ができました。

現在、上海には上海剣道愛好会のほか、上海剣士会、上海剣道クラブが発足しています。さまざまところで地元の中国の人たちが剣道を楽しんでいます。

上海剣道愛好会 URL : <http://www.shanghai-kendo.com>



上海女子チーム団体戦優勝



ビジネス Q&A コーナー

(会員企業から業務・調査依頼表で寄せられたご質問にお答えします。)

質問：新しく公布された外商投資の卸売、小売業に関する規定はどのようなものですか。

日本の新聞でも大きく報道されましたが、中国における卸売り、小売り分野に対する外国からの投資条件が大幅に緩和されたそうです。これまでの規定と比較してどのように緩和されたのか教えて下さい。また上海外高橋保税区の貿易法人は今後どのようなになりますか。

A：『外商投資商業領域管理弁法』が公布されて、2004年12月11日より、投資の地域制限、投資比率制限、最低資本金制限、投資者資格制限などが撤廃されることになりそうです。

2004年4月16日、商務部は『外商投資商業領域管理弁法』(商務部令[2004]第8号 2004年4月16日公布、6月1日施行)を公布し、WTO加盟時の約束スケジュールに添った形で卸売り、小売りなどの流通分野の外資参入に関して、大幅な開放スケジュールを明確にしました。

内容的には予想されたものよりはるかに開放度が高く、今年の12月11日以降は卸売り、小売り分野で全額外資の独資企業を認めるとしており、従来参入の最大障壁であった高額の最低資本金と外国投資者の過去3年間の高額売上高条件などを実質的にすべて撤廃する、という画期的なものとなっています。

まず最低資本金については『公司法』に従う、としており、『公司法』では「卸売り会社50万元(約700万日本円)、小売り会社30万元(約420万日本円)」ですので、最低資本金額は外国人が個人でも自由に卸売り店、小売店を出せる金額となっています。『公司法』の最低資本金額規定は中国人個人が設立する中国企業に適用されていたもので、外資系企業の場合は従来「卸売り会社8,000万元、小売り会社5,000万元」とされていたことと比較すると、資本金額の面では一挙に開放されることとなります。

また外国出資者の資格条件については、従来は小売り企業でさえ「申請前3年間の年間平均売上高が20億ドル以上で、申請前1年の資産総額が2億ドル以上」という高いハードルが設定されており、大手商社や大手物流企業のみしか越えることが出来ない出資者条件がありました。今回の「外商投資商業領域管理弁法」にはまったくその記述がなく、6月1日の本弁法の施行以降は規制が撤廃されると考えられます。

上海外高橋保税區へ設立されている貿易型企業、倉庫・仕分型(実質的に卸売り型)企業との関係はどうなるのか、については、本弁法施行後、営業許可範囲の変更を申請して批准を受けることによって、従来営業許可範囲逸脱とされていた保税區外企業との売買取引が合法的取引とみなされることとなります。また保税区内に立地していることで保税商品の取扱いについては格段に便利ですから、従来設立済みのこれらの企業はこの管理弁法施行後も存続意味を持ち続けるものと思います。

また税収政策との関係で見れば、外高橋保税区内の企業は、まず所得税率が上限 15%（浦東新区全域の政策）であり、これは他の地区に比較して圧倒的に有利なことに加えて、交易市場の増値税還付政策（納付した増値税金額の 3%が納入者に還付される）や所得税優遇措置（企業の利益計上第 1 年目、第 2 年目は納入 15%のうち 7.5%、第 3、4、5 年目は 15%のうち 2.5%が企業に対する財政補助の名目で還付される、但し 2005 年末までの時限政策でその後継続されるかどうかは不明）を考えると、浦西地区のサービス企業や商業企業はこれらの優遇政策が全く期待できないだけに大変有利とすることが出来ます。

ただ国内仕入れ、国内販売を目的とした貿易型企業の場合は、場合によって保税区分外に立地するほうが便利ですので、保税区分外への登記地移転を希望する企業が増えそうですが、中国では税務所管（現在は外高橋保税区分税務局）の移転には大きな障害と困難があります。

現状では法律が公布されたのみで、まだ細部運用規定がどうなるのか不明な点もありますが、会社設立手続きについては従来の外資系企業設立手続きとほぼ同様となります。以下に従来の商業企業設立条件と今回の管理弁法との比較を致しますのでご参照ください。

○卸売業

項目	(旧)外商投資商業企業試点弁法		(新)外商投資商業領域管理弁法
地域制限	WTO 加盟時	深圳、上海浦東に限定	地域制限を撤廃 (2004 年 6 月 1 日以降)
	03 年 12 月 11 日迄	規制撤廃	
	04 年 12 月 11 日～	—	
出資比率制限	WTO 加盟時	外資 49%以下の合弁	1 部の商品(薬品、食品、油、肥料、砂糖、綿花など)取扱い業を除き、12 月 11 日より原則的に出資比率制限を撤廃
	03 年 12 月 11 日迄	外資 51%以上の合弁	
	04 年 12 月 11 日～	規制撤廃	
資本金制限	8000 万元以上 (中西部地区の場合 6000 万元以上)		『公司法』に符合すること (『公司法』規定は 50 万元以上)
外国投資者制限	申請前 3 年の平均年売上高が 25 億ドル以上で、申請前 1 年の資産総額が 3 億ドル以上		制限せず、但し国際的大規模の商業投資者の投資を奨励
自営商品の輸出入権	有り、但し輸入は当年度売上高の 30%以内		有り、限度については言及せず
コミッション代理	不可		可
ロイヤリティ	売上高の 0.3%以内		言及せず
香港マカオ台湾企業	「CEPA」により特別優遇有り		一部優遇規定あり
審査批准権限	国家経済貿易委員会		商務部

○小売業

項目	(旧)外商投資商業企業試点弁法		(新)外商投資商業領域管理弁法
地域制限	WTO 加盟時	深圳、珠海など 13 都市	2004 年 12 月 11 日までは省都、自治区首府、直轄市、計画単列市及び経済特区に限り、12 月 11 日以降は地域制限撤廃
	03 年 12 月 11 日迄	全ての省都及び重慶、寧波に拡大	
	04 年 12 月 11 日～	地理的制限撤廃	
出資比率制限	WTO 加盟時	外資 50%以下の合弁	1 部の商品(薬品、食品、油、肥料、砂糖、綿花など)取扱い業を除き、12 月 11 日より原則的に出資比率制限を撤廃
	03 年 12 月 11 日迄	外資 51%以上の合弁	
	04 年 12 月 11 日～	規制撤廃	
資本金制限	5000 万元以上 (中西部地区の場合 3,000 万元以上)		『公司法』に符合すること (『公司法』規定は 30 万元以上)
外国投資者制限	申請前 3 年の平均年売上高が 20 億ドル以上で、申請前 1 年の資産総額が 2 億ドル以上		制限せず、但し国際的大規模の商業投資者の投資を奨励
自営商品の輸出入権	有り、但し輸入は当年度売上高の 30%以内		有り、限度については言及せず
コミッション代理	不可		可
フランチャイズ経営	不可		可
ロイヤリティ	売上高の 0.3%以内		言及せず
香港マカオ台湾企業	「CEPA」により特別優遇有り		一部優遇規定あり
審査批准権限	国家経済貿易委員会		商務部(小規模小売店は省レベルに授権)

本管理弁法の発表後、弊社にも大変多くのお問い合わせが殺到し、気の早いお客様はすでに弊社と申請準備のためのフィージビリティースタディ作業に着手されていますが、ただ現状では基本となる法律が公布されたのみで、まだ実施細則などの細部運用規定が公布されていないので、具体的な申請受付はまだ開始されていません。

上海市外資工作委員会の所管部門の話では、現在北京中央の商務部と共同で鋭意実施細則を策定中、とのことで、おそらくその中には外高橋保税区企業や既に設立した生産型企業が卸売りや小売り事業を兼営したい場合はどのように申請するか(営業範囲内商品の卸売りや小売り事業は認められる可能性が高いと推測しますが、生産型企業と商業企業は税收政策が全く異なりますので、その点の調整はかなりむずかしい?)、など、細部ではいろいろと問題もありそうですので、全面的な申請受付までにはまだ多少の時間が必要であると推測しています。



上半期の経済成長率は9%以上の予測

新華社ネット(2004年5月3日) :

中国商務部の予測によると、今年第2四半期の経済成長率はほぼ第1四半期の水準を維持し、上半期のGDP成長率は9%以上、下半期の経済成長は上半期に比べ若干低調の可能性はあると言うものの、通年では依然成長傾向にあるとのことである。

中国商務部がこのほど広州交易会で発表した今年春季の「中国対外貿易形勢報告書」では、今年の中国国民経済は発展におけるひとつの重要なステージにあり、安定した発展の実現も可能であるとしており、この判断は主として次の4項の事由に立脚するものである。

1. 経済は新たな上昇段階に入っている。昨年の経済成長が今年の経済成長の基盤を形成しており、経済の運行体制が更に改善されることにより経済成長は持続するであろう。
2. ミクロ要因の活力が旺盛である。昨年の企業収益はミクロ要因に対する自信を大幅に改善し、昨年第4四半期の全国企業景気指数及び企業家信用指数は何れも最高値を記録した。消費者信用指数も上昇を続け、住宅、自動車、通信、旅行等の消費熱は高まる一方である。
3. マクロ経済政策が継続且つ安定傾向にある。内需拡大方針を継続し、財政政策及び貨幣穏健政策を積極的に実施することにより今年の国民経済成長に安定した政策支持を提供し、経済の安定が助長される。
4. 国際的な経済環境が好転する可能性が極めて大きい。世界経済にはまだ若干の不確定要素があるとは言え、全体的に見ると徐々に好転傾向にあり、こうした傾向は外需成長を助長し、中国の輸出拡大に有利な要因となっている。

但し、専門家の指摘によれば石炭、電力、石油等の供給不足、基礎エネルギー源や原材料価格の高騰等により投資及び輸出の成長に対する制約が高まっているとのことである。

発展改革委員会：3項目のデータより中国の地域間格差拡大が顕著

新華社ネット(2004年5月10日) :

中国国家発展改革委員会発展計画司の副司長徐林氏がこの程表明したところによると、改革開放以来、中国各地区は全て大きな発展を遂げたが、1990年代以降地域の発展格差が年々拡大する傾向にあり、次の3項目のデータがこれを顕著に証明しているといえる。

1. 経済全体：東部地区が全国の経済全体に占める割合は増大を続けており、1980年の50%から2003年には59%となる一方、中部地区は30%から24.5%へ、西部地区は20%から16.5%へと下降している。
2. 一人当たりGDP：東部地区水準が全国平均を上回る率が上昇を続けており、1980年の平均比34%高から2002年には平均比約53%高となっている。一方中西部地区と全国平均

の距離は下方に拡大を続けており、1980年と2002年を比較して、中部地区は全国平均の88%から70%へ、西部地区は同70%から59%へ下降している。

3. GDPの格差：東部地区と中、西部地区の一人当たりGDPの格差は拡大を続け、1980年に夫々1.51及び1.91であったものが2002年には2.1及び2.61となっている。また、直轄市を除き、一人当たりGDPが最高の省と最低の省の格差は、1980年の3.52倍から2002年の5.43倍へと拡大している。

徐林副司長によると、地域格差が過大になれば一連の社会、政治問題が発生する可能性があることから、多くの国家では積極的な政策により地域格差縮小のモデルプランを実施しているとの事である。市場経済国家においては、立ち遅れている地区の発展促進に対し特別な開発計画及びその基金を設けており、例えばEUの構造調整基金はEU加盟国の後発地域に対する特別開発基金であり、地域格差を縮小してEU全体の発展を図るとしている。

発展改革委員会、電力価格を調整：KW時あたり平均0.014元の値上げ

中国青年報(2004年5月9日)：

国家発展改革委員会は近日中に電力売価水準を調整し、調整幅はKW時あたり全国平均の0.014元アップとし、併せて地方独自の優遇価格を廃止することにより、電力価格の矛盾を緩和する計画である。

調べによると、今回の電力売価調整の目的は電力網経営企業の建設と改造投資の回収問題、石炭価格高騰問題、一部発電企業から政府への定価電力供給不足問題、ならびに一部地区新設発電企業の電力価格査定問題等を重点的に解決することである。今回の調整により、キロワット時あたりの電力価格は西部地区で2～3分、中部、東部地区で0.5～2分の値上げとなる。

同委員会の規定によると、今回の価格調整においては、農業生産用及び中小規模化学肥料生産用電力の価格は調整を行わず、商業用は工業用と合理的な比率を維持することを原則として価格調整し、生活用電力の価格調整については、規則により公聴会を開くと共に、電力価格の調整が低収入者に与える影響を減じる措置を採るとしている。一部のエネルギー消費の高い業種については、国家産業政策に基づいて差別価格を試行するとしている。

更に同委員会は地方独自の電力価格優遇措置の取消を決定した。同委員会と電力監督会は優遇電力価格廃止作業の督促検査を強化し、違反のある省(区、市)については国務院に通報し、メディアで公開する一方、地方政府の越権による価格優遇措置を継続して実施する電力網経営企業については法により調査、処分するとしている。

上海、第1四半期の外資導入契約ベースは34.45億ドル

上海外資ネット(2004年4月8日)：

最新データによると、今年第1四半期の上海における外国企業直接投資契約金額は32.15

億ドル、前年比 5.3%の下降で、過去 5 年間で初めてのマイナス成長となった。上海市外資委員会の担当者が昨日取材記者に語ったところによると、これには某外資系大企業の機構改革が一因となっていると見られるが、総体的には今後もプラス成長を続ける傾向にあり、更なる影響はないとのことであった。

伝えられるところによると、今年第 1 四半期の上海の外貨導入契約ベースは 34.45 億ドルで昨年同期比若干増であったが、前出の機構改革により本来の増資額 7 億ドル中、2.3 億ドルが登録資本金から株主借款に転じ、今年 2 月に国家商務部の批准を経て国外送金されたことから、2 月の契約外資額がダウンしたとのことである。

昨年第 1 四半期は史上最高記録の 33.93 億ドルに達し全年の 30.67%を占め、この記録は未だ更新されていないが、上海市外資委員会プロジェクト審査処の朱文斌処長によると、前出の構造改革がなければ、今年第 1 四半期は記録更新の可能性もあったとのことである。

最近の傾向を見ると、上海市が外国企業と商談中、或いは準備中のプロジェクトは増加を示しており、元々他の省や市に投資した外資系大企業の転入や、投資額が大きく科学技術含有量の高い外資新規プロジェクトならびに地区本部や研究開発センター等の進出が続いている。今年第 1 四半期の新規プロジェクトは 1,153 件(うち総投資額が 1,000 万ドル以上の大型プロジェクトは 142 件)、実際利用外資額は 18.78 億ドルで各々前年比 17.2%、29.6%の増加、また 3 月末時点で今年批准した外商投資企業は 94 社、外資系研究開発センターは 111 社、認定した国際型企業の地区統括本部は 61 社である。



編集後記

最近、上海ではタクシーが非常につかまりにくい状態になっています。特に雨天や金曜日の夜等、午後 5 時頃から 7 時頃迄の時間帯は魔の時間帯とも言えるほど、なかなかタクシーが捕まりません。ある木曜日、夜の 7 時に指定の場所に会食に行く必要がありました。順調であれば、15 分程度のタクシーの距離にあるレストランです。木曜日だもんね、余裕を見て 6 時 15 分頃出発・・・と思い、会社を出て、瑞金路に立って見てビックリ。そこかしこにタクシーを待つ人のグループが！どうしよう！とにかく南に下ってここそこでタクシーを待つ人々の先を行かなくちゃ。ある大きな東西の通りの交差点に着くと、そこにもタクシーを取り合う人々が。うっ、焦る！とその時私の目に入ったのが空車の「大衆」(上海タクシーの大手)の貨物タクシーです。前に 2 人の乗客を乗せ、そして後部は完全な箱型のトラックですが、とにかく空車なので運転手に乗ってもいいか?と尋ねた所、これは貨物用だ、初乗り料金は高い、等説明します。料金はどうでもいいから、とにかく×××へ行って、と私。運転手がコックリと頷くと同時に飛び乗りました。ちなみに初乗り 23 元(通常のタクシーは 10 元)で、その後の距離と料金は普通のタクシーと同じです。ベンツのタクシー(なんと料金は通常のタクシーと同じ)、9 人乗り小型マイクロバスのタクシー等に一人で乗った事のある私にとって、又一つ経験が増えた木曜日の夜でした。

(鈴木雅美)